

科目名	心理療法特論 [院]					単位	2.0
担当教員	田畑 治						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1, 2	授業番号	8015

●授業のテーマ

本特論は大学院臨床心理学専攻・臨床心理士養成コース修士1年次と2年次に開講される集中講義である。同専攻生のみが受講する選択必修科目である。

心理療法はサイコセラピー (psychotherapy) のことである。そこで将来、臨床心理士として臨床現場に携わりたいことを希望する者は、事前にその理念、臨床現場での現状理解や基礎知識・理論を持ち、態度や技法等の体験的習得は不可欠である。そして学内・外での『臨床心理実習』の中で心理療法の基本的な実践能力などをつけることは不可欠である。

●到達目標

- 1 : 自分で心理療法にスーパービジョンを受けながら実践できる見通しになれること
- 2 : 心理療法において不可欠な要因 (態度や技法等) を習得すること
- 3 : 自分自身のイニシアル・ケースを持つということ
- 4 : 心理療法の実践事例をもとに事例研究ができるようになること

●学習内容 (授業概要)

- I. 自己の心理療法への事前知識確認 I
- II. 心理療法の方法論 (基礎知識 II)
- III. 心理療法の実践とまとめ

●学習内容 (授業計画)

- 1 ~ 4 回 : I. 自己の心理療法への事前知識確認 I :
 - 1 回目 : 現在までの経験の自己点検・課題の明確化
 - 2 回目 : 心理療法とは何か—種類・広がり : 児童心理療法など①
 - 3 回目 : " ②
 - 4 回目 : " ③
- 5 ~ 8 回 : II. 心理療法の方法論 (基礎知識 II) :
 - 5 回目 : 心理療法の基本論理
 - 6 回目 : 心理療法における技法と態度との関係
 - 7 回目 : 心理療法の展開過程—始まりと終結
 - 8 回目 : 心理療法の効果判定
- 9 ~ 15 回 : III. 心理療法の実践とまとめ
 - 9 回目 : 心理療法の公開事例 (1) と討論
 - 10 回目 : 心理療法の公開事例 (2) と討論
 - 11 回目 : 担当者の事例 (1) と討論 (非行少年)
 - 12 回目 : 担当者の事例 (2) と討論 (夢子)
 - 13 回目 : 担当者の事例 (3) と討論 (境界例)
 - 14 回目 : 担当者の事例 (4) と討論 (夢と治療者像)
 - 15 回目 : まとめ

●準備学習・事後学習の内容

担当者が提示する事前の小課題に予習して調べてくるとと主体的な討論・発表に重きを置く。

●成績評価方法・基準

①出席状況と授業態度 (30%)、②授業時に提起する小課題レポートの成績(40%)、③最終課題の成績(30%)の総合評価

●テキスト (必携)

使用しない。授業時に教材を指示し、準備する。

●参考文献／その他

河合隼雄編 1990 事例に学ぶ心理療法 日本評論社

田畑治・村山正治編 1977 来談者中心療法 (講座心理療法 1) 福村出版

田畑治監修 2000 人間援助の諸領域ーそのころ・実践・研究ー ナカニシヤ出版

ミック・クーパー著 (清水幹夫・末武康弘監訳) 2012 エビデンスに基づくカウンセリング効果の研究ークライアントにとって何が最も役に立つのかー 岩崎学術出版社

●履修上の注意

心理療法は生身の人間に関わる取り組みであり、かつ援助実践活動であるから、それに対して個人の尊厳・守秘義務など高い倫理的な弁えを必要とする。

教員 e-mail アドレス : otabata212@nifty.com